



# 木場小だより

教育目標：豊かな心と確かな学力を備えた、  
心身ともにたくましい児童の育成  
<http://www.hakusan.ed.jp/~kiba-e/>



令和6年11月18日

小松市立木場小学校  
校長 小山貴子

TEL：0761-44-2803  
FAX：0761-44-5974  
[kiba-e@kec.hakusan.ed.jp](mailto:kiba-e@kec.hakusan.ed.jp)

## 教育ウイーク① ～学校公開2日～

2日の学校公開では大変な荒天の中、保護者の皆様、子ども達の学習支援をいただいた皆様、地域の皆様のおかげでたくさんのご来校をいただきました。本当にありがとうございました。駐車場や校舎内での移動などご不便をおかけし、申し訳ない思いです。

各教室では生活科や総合的な学習の成果発表や交流を目的とした授業を行いました。子ども達にとっては学びを広げ・深める場、学びの評価の場となるととてもいい機会となりました。



学校保健委員会は「命」をテーマに、4年以上の児童と、全保護者、学校三師、教職員と一緒に考える機会となりました。今年は1月1日の能登半島地震、9月21日の能登豪雨など、自然災害によってかけがえのない多くの命を失いました。また会長さんの話にもありましたように、近年は子どもが命を落とす原因として事故や病気に加え、若年層の自殺者増加が社会問題となっています。



教養委員さんによる事前アンケート結果の紹介の後、ゆたか助産院の吉田みち代助産師さんが「生と性の学習会～命の生まれる現場から～」の講話の中で、自分達がこの世に存在するのは35億分の1の奇跡であること、生まれた後もたくさんの人からの愛をもらって育てられて今があることを話してくださいました。生まれたばかりの赤ちゃんは真っ赤な顔をして大きな産声を上げます。これは、お母さんのお腹から外に出て初めて自分で肺呼吸ができたということを意味しているのだそうです。自分で呼吸をし、寝返りを打ち、少しずつ形のある物を食べ、ハイハイして、座って・・・とだんだんできることが増えていくという話に数年前のお子さんの姿を重ねていらっしゃった方も多かったと思います。子ども達も、できるようになるように支え、できたことを喜んでくださった方がいたから今の自分があることを改めて知ることができました。守られてきた命は自分で守っていくものとなります。自分の命や体は自分で守るということを「プライベートゾーン」「同意」をキーワードに話されました。この2つの言葉はぜひ覚えていただきたいし、ご家庭でも話題にしていきたいです。

## 教育ウイーク② ～持久走大会7日～



夜中から明け方にかけて雨が降り続いていましたが、子ども達が登校する頃には雨が上がり、予定通り持久走大会を実施しました。少し肌寒い中でしたが、たくさんの方々に見守られ、すがすがしい木場潟の景色の中を子ども達が元気いっぱい駆け抜けていきました。皆さんの応援のおかげでいつも以上に頑張った子ども達は、また一つ今年の目標を達成し、笑顔でいっぱいでした。



## 器械運動教室

15日、K'S体操クラブから2人の先生をお招きし、器械運動教室を行いました。本校では3、4、5年生が参加し、毎年「跳び箱運動・マット運動・鉄棒運動」を順に行っており、今年はマット



運動の年にあたります。校区にある

体操クラブとあって、講師の先生とも顔見知りの子も多く、やる気満々の子ども達は、準備体操の時からきれいなV字バランスをしていました。マットの上での学習では、苦手意識の強い子達にはコツだけでなく様々な補助具を使うことで「できた経験」を増やし、得意な子には、よりきれいにより大きく見せるコツや難しい技を紹介することで「挑戦する意欲」を高めてもらいました。子ども達の「もっとやりたい」という気持ちを大切に、授業も進めていきます。



## 木場潟野鳥観察

愛鳥モデル校の指定を受けている本校は、年に何度かの野鳥観察を木場潟で行っています。初めての野鳥観察となる4年生は、東園地の内藤さんと一緒に出掛けました。



中央園地で出迎えてくれたのは、木場小学校の先輩が設置した巣箱の上にとまったスズメでした。これを見て、子ども達の気持ちは一気に高まりました。双眼鏡の使い方を教わった後、静かに木場潟の水面に双眼鏡を向けると、「オオバン」「ウ」「マガモ」等を見つけたという子ども達の声があがります。先輩の発表を見たり兄・姉から教わったりして覚えたのだとか。学びのつながりに嬉しくなりました。20日には5年生と4年生が博物館の金山専門員と観察をします。

## ワックスがけの翌朝

14日、下校前に子ども達が水拭きをした後、職員が教室のワックスがけをしました。翌朝登校した子ども達は、机や棚が全て廊下に出されてピカピカになった教室を確認した後、あっという間に自分の教室の机や棚を運び入れ、低学年の教室や特別教室の運び入れの作業に向かいました。前日重い図工室の机を運び出したのは5年生だったと聞き、運び入れの様子を見に行くと、そこには5年生だけでなく4年生や6年生もいたのです。自然な形で「手伝う」姿に木場っ子の素敵さを感じます。